



みさきっ子

<2学期始業式>

8月25日(木)

みさきっ子全員が元気に2学期を迎えました。どの子どもいい顔です。きっと充実の夏休みだったでしょう。始業式では、児童2名の(***、***)ピアノ伴奏で元気に校歌を斉唱し、児童代表7名が2学期の決意を述べました。



カタカナの練習と音読をがんばる。
漢字を丁寧に練習して覚える。かけ算の勉強が楽しみ。
音楽発表会での楽器演奏と早寝早起きをがんばる。
毎日漢字の勉強をする。そろばんを毎日こつこつ練習して6年生までに1級をとりたい。給食を減らさない。
音楽発表会(♪島人ぬ宝)、体育のボール投げ、ロッカーなどの整理整頓を頑張る。
英語で話していることを聞き取れるようになる。ブラックピンクのようにダンスをうまく踊れるように家でも毎日練習する。
運動会や修学旅行、その他の学校行事などで低学年の手本になる。最高学年として低学年をリードしたい。

■■校長先生の話■■ どのような夏休みを過ごしましたか? きっと、楽しく過ごした夏休みだったと思います。私の夏休みは、1つ目、飛行機に乗って地元に戻り、お盆を過ごしました。祖父母、父のお墓掃除をして、3日間はお先祖様をお家に迎えました。祖父母、母がいて、私がいる。つながっている。大切な命や自分を大切にすることについて考えました。2つ目、テレビで甲子園の応援をしました。滋賀県の近江高校、エースで4番、キャプテンの山田選手のファンになりました。甲子園の球児のように、一生懸命になれることがある人は、いつもかっこいい、輝いているなど思いました。3つ目、パソコンの試験を受けました。結果は不合格でした。1000点満点の600点以上が合格で、私は490点で、まだまだ。でも、あきらめず、11月に、もっともっと勉強して、再チャレンジします。

2学期、みさきっ子のみんなには、私が夏休みに感じた3つのことをアドバイスします。1つ「一人ひとりが大切な存在であることを自覚し、自分を大切にすること。2つ「一生懸命になれるものを見つける」こと。3つ「何かに挑戦して失敗したとしても、あきらめずに再チャレンジすること。2学期も、みさきっ子のみんなと先生たち、ひとつになっっているいろいろなことに取り組んでいきましょう。

2学期、2年生に新しいお友達が入りました。4組には新しい先生が! ウェルカムです!! 仲良くやっていきましょう ♥♥♥

<職員校内研修>7月28日(木)

沖縄水産高校専攻科、海洋技術科の見学をしました。県内屈指の専門的なことが学べる地元の高校なので、喜屋武小の子どもたちがキャリアとして選択できるよう研修を深めました。



- 専攻科の生徒たちの案内・対応のすばらしさに感心!
- 沖水との紹介してくれた***さん(保護者)に感謝!

琉球新報

2022.8.14.Sun.

<図書寄贈がありました!>

福地出身の***さんより図書(写真集)の寄贈がありました。***さんは喜屋武小学校⇒三和中学校⇒糸満高校と進学し、琉球大学在学中に沖縄戦をテーマにした写真を撮り始めたそうです。地元の後輩のみなさん(喜屋武小の子どもたち)が沖縄戦のこと、平和のことを考えるきっかけになれば、とのこと。

- ①『鎮魂の地図』②『ガマーイクサバの記憶 沖縄戦から77年』③『島尻の秘祭 ウヤガン』④『地図にない村』の4冊です。図書館に置きます。保護者の皆さまぜひ手に取って読みください。



<お礼です。ありがとうございました!>

喜屋武区長、学校運営協議員の「***さんのスイカ」が届きました。毎年恒例で子どもたちも楽しみにしています。29日(月)の給食でいただきました。甘くて冷たくておいしかったです。

山城の***さん(学校運営協議員、民生員)からは、子どもたちの交通安全のために「立て看板」をいただきました。手作りでも頑丈です。早速、学校近くに立てて有効活用しています。***さん、***さん、子どもたちのためにありがとうございました。



<朝のあいさつ活動も再開!>8月26日(金)

2学期が始まり、子どもたちの自主活動のひとつ「あいさつ活動」が再開しました。毎朝、喜屋武公園の角に立ってくれる***さん、くうちゃんの散歩の途中で立ってくれる***さんにあいさつ。信号の横断歩道には、***さんと交番の***さん。

「2学期もお世話になります。よろしくをお願いします。」

<児童の活躍を紹介します。>

沖縄戦の記憶 陶芸で表現 糸満

「弾の痕が残るヒンブン」 全国展2位

【糸満】制作した陶芸作品「弾の痕が残るヒンブン」がこのほど、全国子ども陶芸展 in かさまの小学4~6年生の部で茨城県知事賞を受賞し、2年連続で全国2位の評価を得た。近所のヒンブンをモデルにした作品で、「傷ついても倒れないヒンブンは、平和の象徴」と紹介する。



作品「弾の痕が残るヒンブン」(父提供)

子ども陶芸展に挑戦したのは3度目。沖縄をテーマに小学4年生から参加している。作品の題材を探して父と近所を散歩している時、日頃から見ているヒンブンが目にとまった。近くで見ると、丸くえぐられたような穴が数カ所あった。***さんの説明で沖縄戦当時の弾痕だと知り、衝撃を受けた。後にヒンブンには風や魔物から家を守る役割があると分かり、このヒンブンも「弾から家



を守っていた」と考えるようになった。モデルのヒンブンは、石灰岩の石板敷からなる。作品では筆やスポンジを使い分けたり、釉薬を垂らしたりして一枚一枚に表情を出した。ゴツゴツした岩肌は、石灰岩の上に粘土を押し付けて表現した。最高賞の文部科学大臣賞を目指して制作し、審査員からは「質感のクオリティーが高い」と評価された作品だったが、全国一には一步届かなかった。***さんは「悔しい。次こそは文部科学大臣賞を取れるような作品を作りたい」と意気込む。作品は8月末まで茨城県陶芸美術館で展示されている。「沖縄には身近に戦争の痕がある。戦争のことに関心を持ってほしい」と願った。(比嘉璃子)